

音楽と家庭滞在を伴う国際交流

財団法人穴澤病院理事長
会津音楽協会会長
穴澤 養 一



〔筆者紹介〕

穴澤 養 一・あなざわよういち

- 明治三十五年 会津若松市に生まれる
- 昭和二年 東京慈恵会医科大学卒業
- 九年 同大学研究科終了・同大学講師嘱託
- 十五年 会津若松市に内科、呼吸器科、伝染病科専門の病院開設
- 二十一年 帝国女子医専教授兼附属穴澤病院長
- 三十三年 会津若松ロータリークラブ会長
- 四十三年 厚生大臣賞（公衆衛生に貢献）
- 四十四年 R・I・353地区ガバナー
- 四十五年 福島県文化功労賞（音楽）
- R・I・353地区プログラムで、FMC合唱団長としてアメリカ演奏旅行（以後数回にわたり合唱団を率いて海外を訪問）
- 四十九年 勲四等瑞宝章
- 五十三年 第三回P・T・P世界大会（ロンドン）に日本代表の一員として参加

音楽は、政治、家庭、言語や社会的環境がどんなに違っても、必ず聴く相手の心の中へ否応なしに食い込んでしまうことから最大の国際的な言葉と見なされている。これを国際交流のため的手段として活用できれば、確かに大きな意義を持つてくる。ポール・ハリスの創立した国際ロータリーは、最初は友愛と奉仕から始めても、最終の目標は世界から戦争を無くして平和を確立することである。また、アイゼンハワー元米大統領がPeople To People (P.T.P.)なる国際友好団体を創立したのも、お互いの庶民的生活を開放し合い、相互の国情を理解することによって戦争が避けられるという理念からであった。この外にも、国連、ユネスコ、ライオンズクラブ等、世界平和を目標にしている組織や団体があるが、これらの何れもが国際的な家庭滞在を重視している。

私が、昭和四十五年以来今日までの間に日本から、アメリカ、欧州、香港、台湾等の外国に送った合唱団その他の音楽団体は総計二十六団体で、約千四百余名となったが、これらの団員のほとんどは英会話ができなかった。このように英会話には困った日本の音楽団体であったが、家庭滞在を主とする演奏旅行の中で正しく守ってくれたエチケットと音楽の素晴らしさによって、短期的滞在にもかかわらず、十分に好評を得ることができた。